令和4年度在宅医療・介護連携推進支援事業
都道府県担当者等研修会議　2023.3.8

資料3-1

熊本県

都道府県・市町村連携支援
テーマ：一連で設計したPDCAの運用方法の獲得について

熊本県　報告

熊本県健康福祉部長寿社会局
認知症対策・地域ケア推進課
地域ケア推進班　原　鈴

本日の内容

１　熊本県の概要

２　都道府県・市町村連携支援参加のきっかけ

３　都道府県・市町村連携支援内容

４　今後に向けて

本日の内容

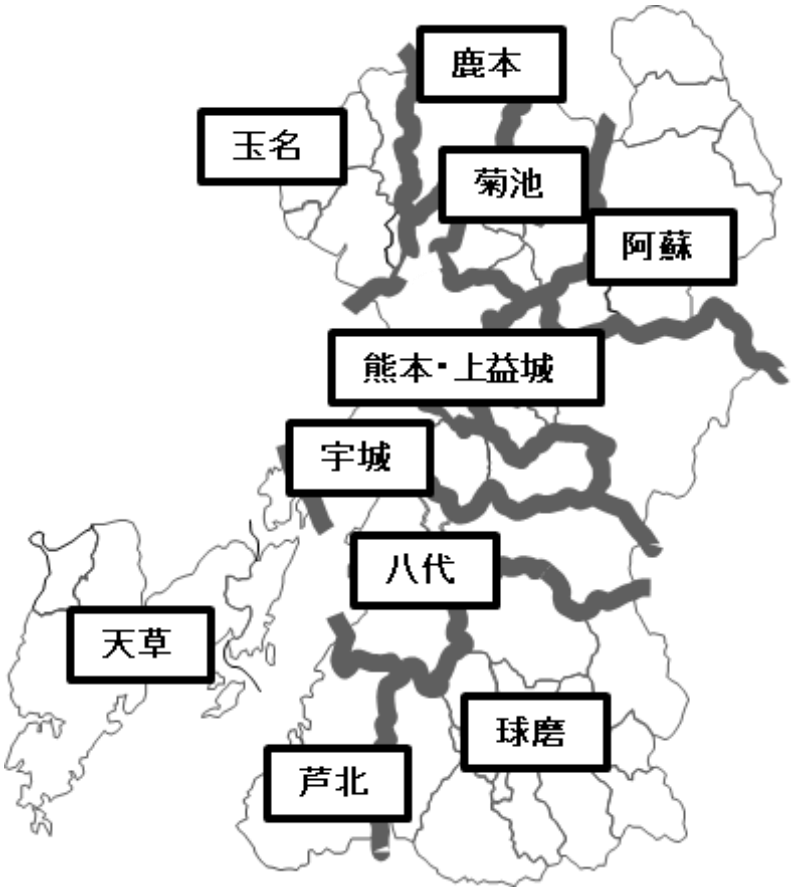
1　熊本県の概要

2　都道府県・市町村連携支援参加のきっかけ

3　都道府県・市町村連携支援内容

4　今後に向けて

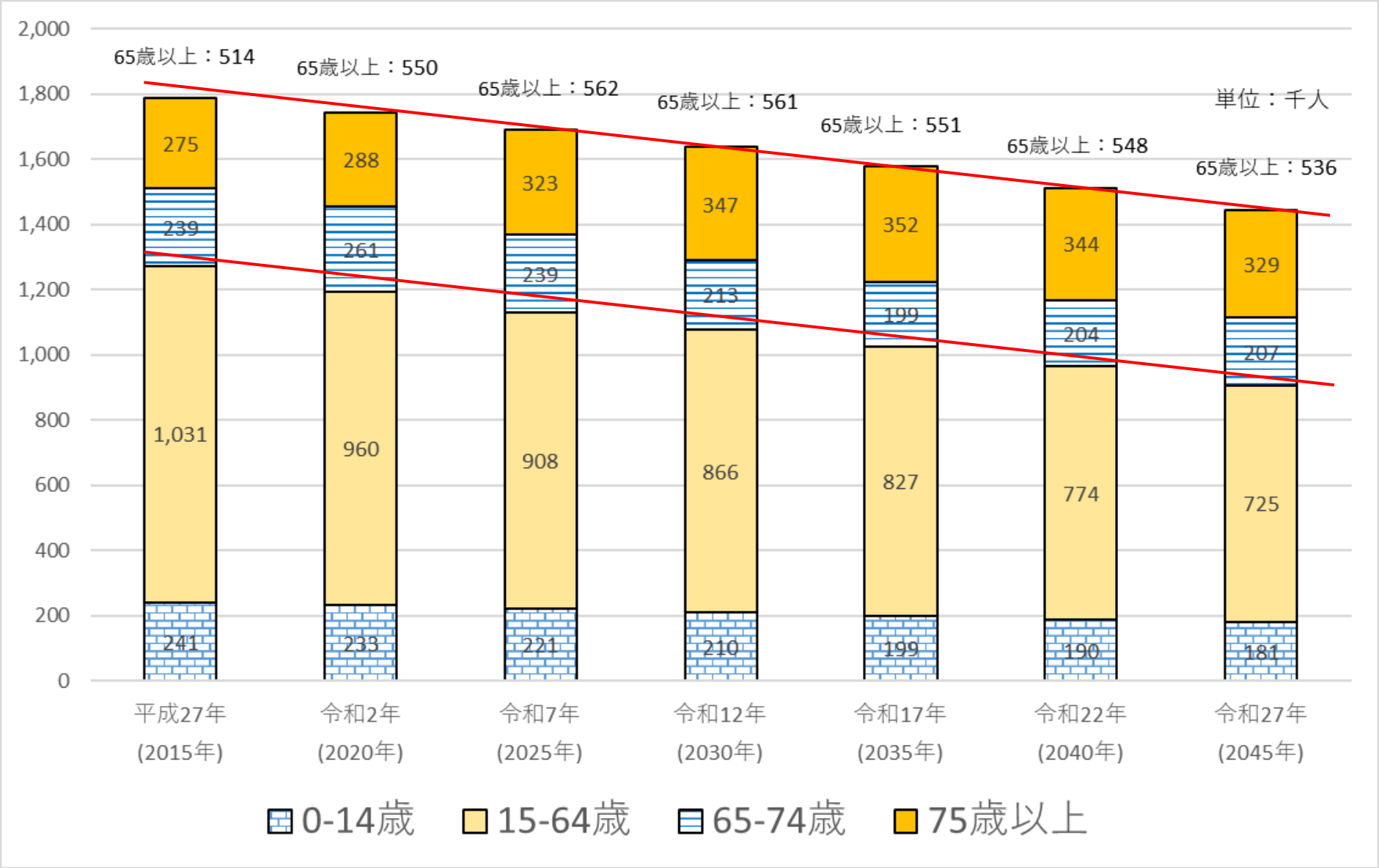
1　熊本県の概要



人口	**約172万人**
高齢者人口	約55万人
高齢化率	31.9% （全国平均28.9%）
市町村数	45市町村（14市23町8村） ※14市のうち政令指定都市1市
圏域数	10圏域

※人口、高齢者人口、高齢化率はR3.10.1時点

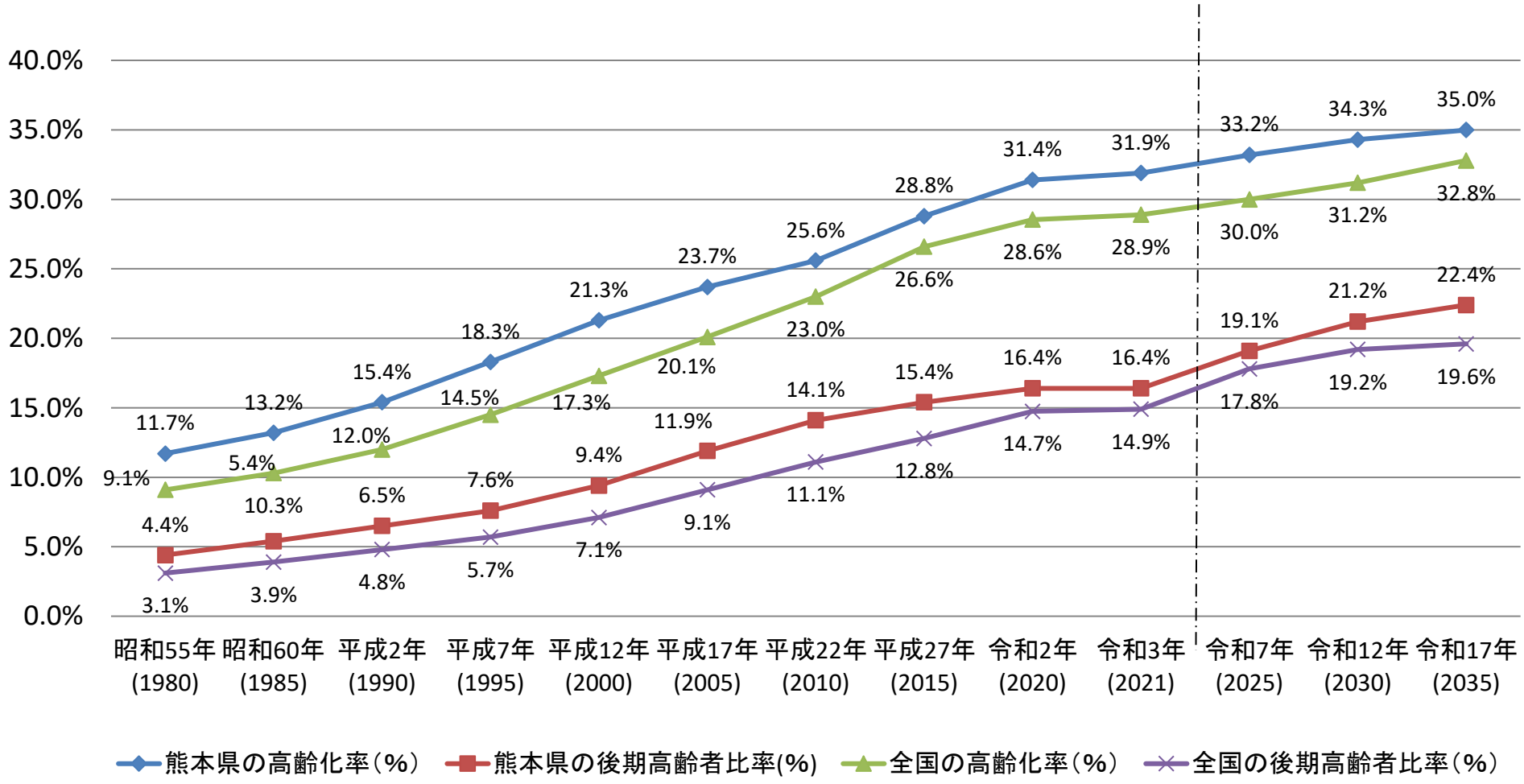
熊本県　人口の推移（推計）



国立社会保障・人口問題研究所 「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」 から作成

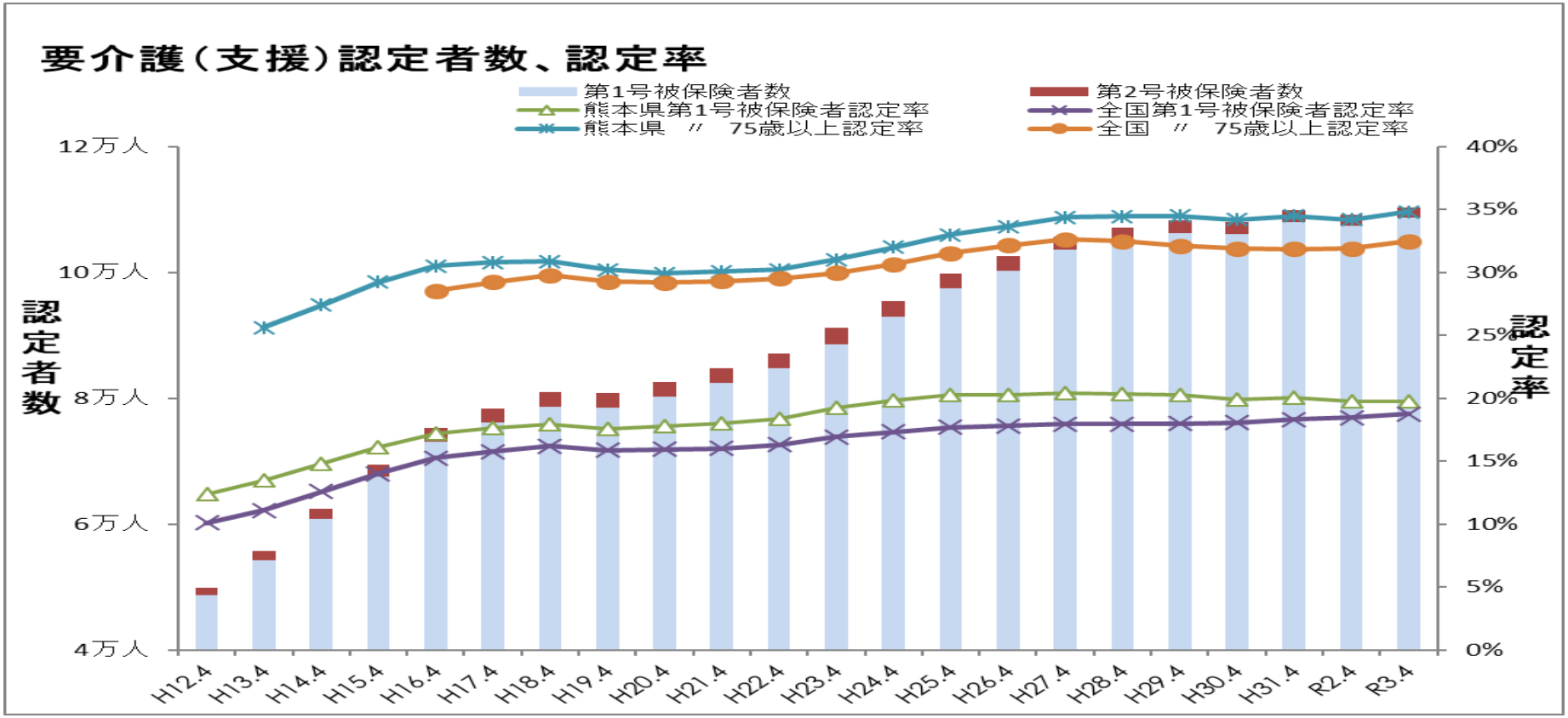
熊本県の高齢化率の推移と予測

＜高齢化率の推移と予測＞

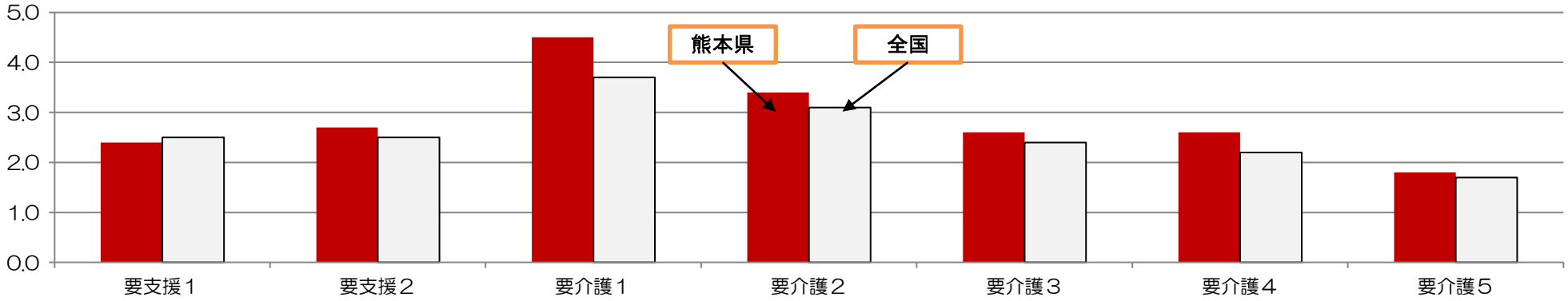


（資料）昭和55年～令和2年：総務省統計局「国勢調査」
令和3年：全国は総務省統計局「人口推計」
熊本県は熊本県統計調査課「熊本県推計人口調査（年報）」
令和7～17年：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（平成29年推計）、「日本の地域別将来推計人口」（平成30年推計）
（注）令和2年の数値は令和2年国勢調査確定値に遡及改訂している。

要介護認定者数の推移（熊本県）



介護度別認定率（全国との比較）



第8期熊本県高齢者福祉計画・介護保険事業支援計画

計画の目指す姿

高齢者が健やかに暮らし、いきいきと活躍できる“長寿で輝く”くまもと

すべての高齢者が

- ○ 暮らしたいと思う地域・場所で
- ○ 快適かつ安全・安心に
- ○ 生きがいと社会参加の機会を持ちながら

自立して長寿を全うすることのできる熊本を目指します。

在宅医療と介護の連携推進

- ○ 在宅医療と介護を支える体制の整備と市町村支援
- ○ 訪問診療・訪問看護等の在宅医療基盤の整備

令和4年度（2022年度）在宅医療関連事業

	事業名	事業概要
在宅医療	①在宅医療サポートセンター事業	県在宅医療サポートセンター及び地域在宅医療サポートセンターの運営費に対する助成 （助成先：熊本県医師会、各地域在宅医療サポートセンター）
	②在宅医療連携体制推進事業	在宅医療の在り方等を検討する熊本県在宅医療連携体制検討協議会、在宅医療連携体制検討地域会議の開催
	③在宅医療レセプトデータ分析事業	国保レセプトデータを集計・分析したうえで、結果を保健所等と共有し、圏域毎に訪問診療の現状・需要見込等を検討
在宅歯科医療	④在宅歯科医療連携室機能強化事業	訪問歯科診療相談・調整、県民や関係者への普及啓発、人材育成等を行う在宅歯科医療連携室運営費に対する助成
	⑤在宅歯科診療機材整備事業	在宅歯科医療実施のために必要な医療機器等の購入費に対する助成
	⑥歯科衛生士による高齢者の自立支援事業	在宅や施設における口腔ケア、介護予防事業等に携わる歯科衛生士を対象とした研修会開催に対する助成
訪問看護	⑦訪問看護サービス提供体制強化事業	訪問看護師の新規雇用・人材育成に係る運営経費への助成
	⑧訪問看護サポート強化事業	訪問看護ステーションサポートセンターの運営、管理者支援、人材育成、訪問看護サービスの利用促進、訪問看護に係る課題検討等に要する経費への助成
地域包括	⑨地域包括ケアシステム構築加速化事業	地域包括ケアシステム構築に係る各市町村の課題や実状に応じて、職員や専門職派遣による包括的かつ伴走型の支援、市町村及び関係機関を対象とした研修会開催等を実施

在宅医療サポートセンターの概要

平成30年度より開始

在宅医療サポートセンターとは

- 必要な医療の提供体制づくり、マッチング、医療機関の連携促進、関係専門職の人材育成、県民への普及啓発等を行う、在宅医療のサポート機関
- 県在宅医療サポートセンターと地域在宅医療サポートセンターの2種類

県在宅医療サポートセンター

- 各地域在宅医療サポートセンターと連携した全県的な施策を推進 （人材育成、普及啓発　等）
- 熊本県医師会を指定

☆地域在宅医療サポートセンター連絡会議の開催
☆医師等の人材育成
☆多職種及び市町村職員等向け研修・優良事業所の顕彰
☆在宅医療の普及啓発
☆熊本県在宅医療連合会（29団体で構成）の運営
　※関係機関等の共通認識のもと人材育成、普及啓発等の在宅医療を育む取組みを推進
☆その他、在宅医療の充実に資する取組み（災害、感染症等発生に備えた取組み等）

在宅医療サポートセンターの概要

平成30年度より開始

地域在宅医療サポートセンター

- 各圏域内の地域特性に応じ、日常の療養支援や急変時対応等の在宅医療を推進
- 自ら医療機関として在宅医療を提供する医療機関や複数の医療機関グループを指定

（ア）在宅医療の取組みの充実

☆急変時対応　☆入退院支援　☆日常の療養支援　☆看取り

（イ）地域における在宅医療の普及促進

☆訪問診療等の実施機関増に向けた取組み　☆普及啓発

☆地域在宅医療サポートセンター連絡会の開催

（ウ）その他

☆災害、感染症等の発生に備えた取組み

☆地域の関係団体との連携に向けた取組み

☆その他、在宅医療の充実に資する地域独自の取組み

【地域在宅医療サポートセンターの指定先】

- 郡市医師会指定　8カ所
- 医療機関　10カ所

計18カ所

本日の内容

1　熊本県の概要

2　都道府県・市町村連携支援参加のきっかけ

3　都道府県・市町村連携支援内容

4　今後に向けて

２　都道府県・市町村連携支援参加のきっかけ

① 令和4年1月1日付け　突然の異動で認知症対策・地域ケア推進課へ

② 着任して1か月後「在宅医療・介護連携推進事業の実施状況調査」協力依頼が届く

③ 調査結果から、次のことを把握

・事業の委託が進んでいること

・目指すべき姿の設定に関して、4つの場面別に設定していない

・4つの場面を意識した取組みが出来ていない

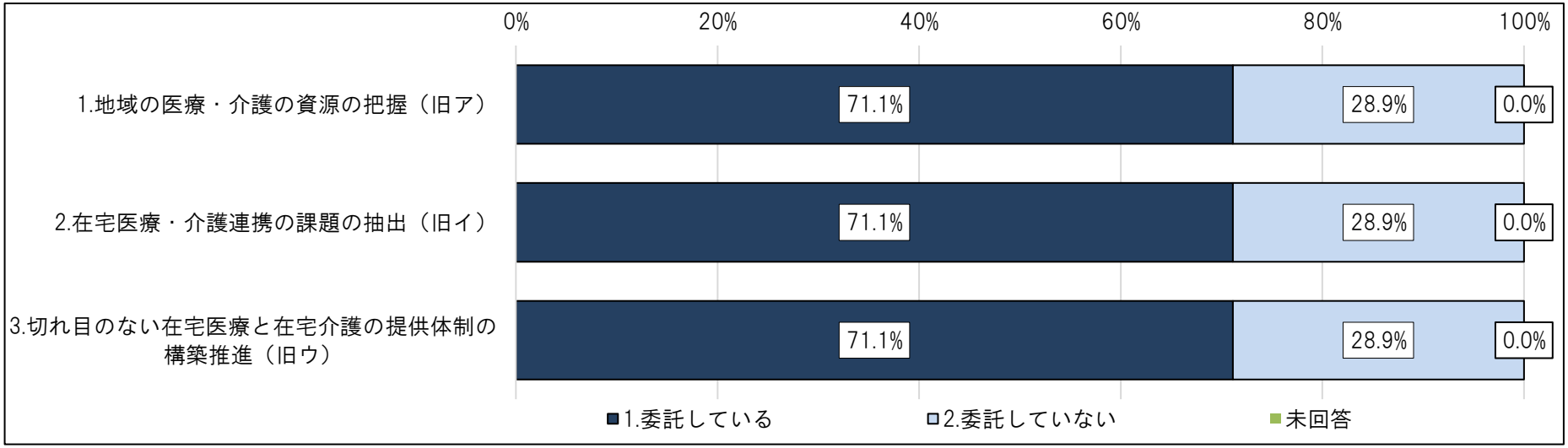
・事業実施のためのノウハウ不足を課題としている

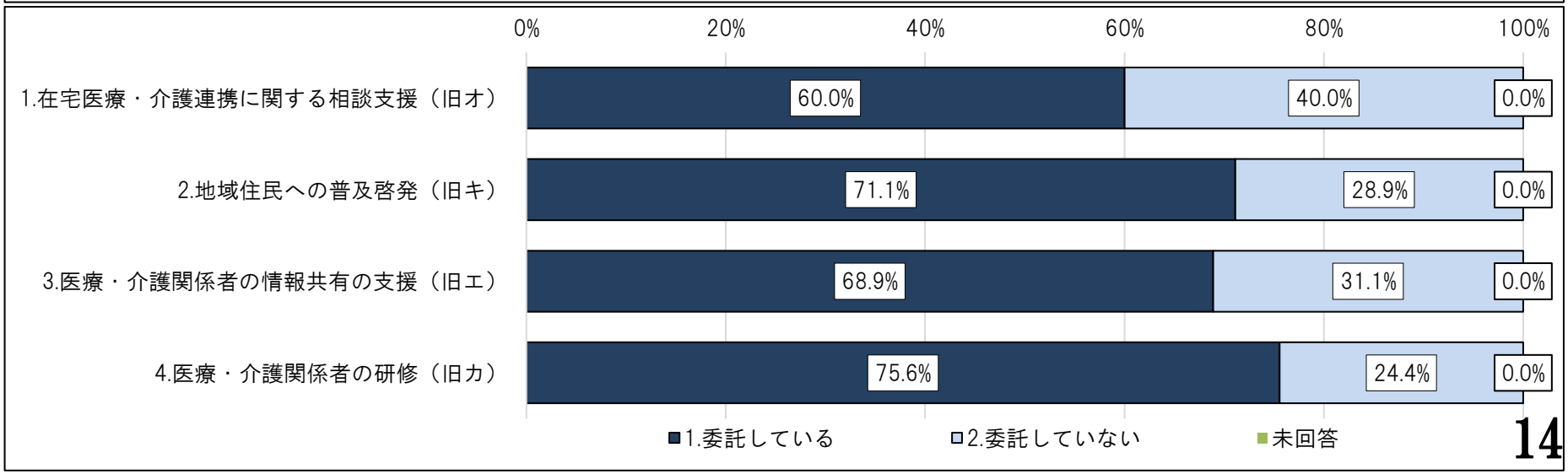
※それぞれの調査結果は次頁以降に掲載

2　都道府県・市町村連携支援参加のきっかけ

在宅医療・介護連携推進事業の委託の状況

およそ7割が委託して事業を実施

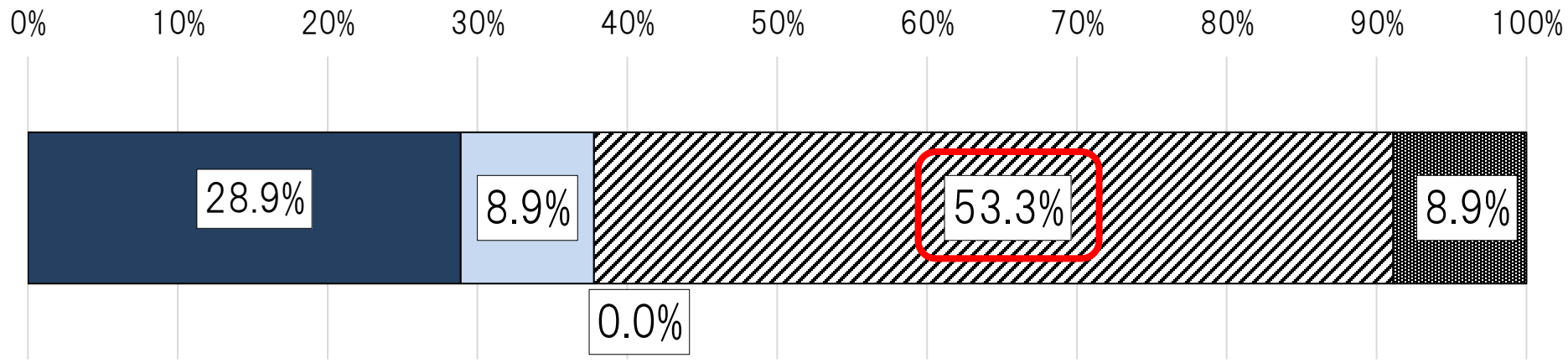




在宅医療・介護連携推進事業の実施状況に関する調査より

2　都道府県・市町村連携支援参加のきっかけ

目指すべき姿の設定状況

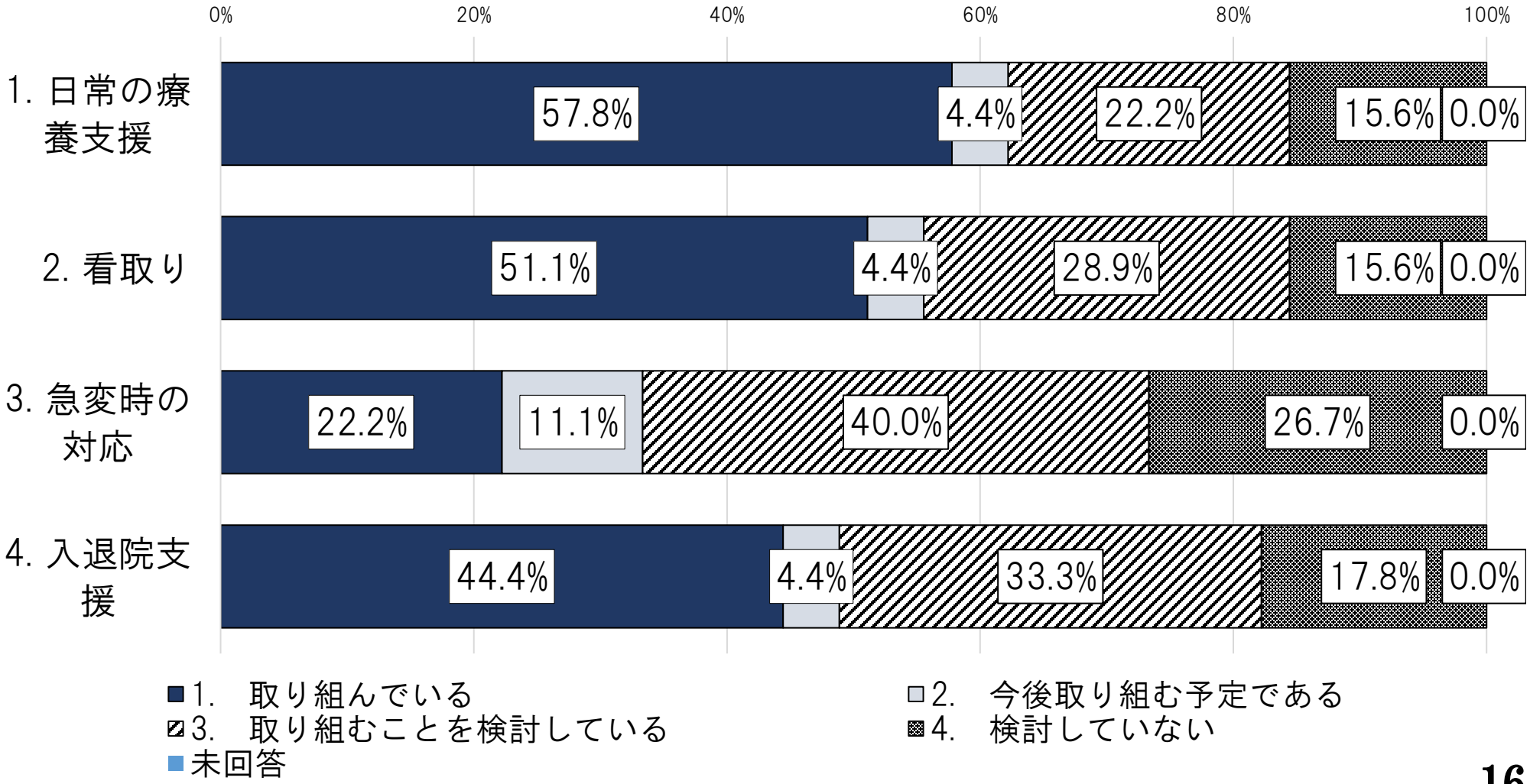


- 1. 4つの場面で設定し、介護保険事業計画に記載
- 2. 4つの場面で設定し、在宅医療・介護の関係者では共有しているが、介護保険事業計画では記載していない
- 3. 4つの場面で設定しているが、自治体内の共有に留まる
- 4. 本事業の実施によって目指す姿の設定はしているが、特に4つの場面での設定はしていない
- 5. 特に設定はしていない

在宅医療・介護連携推進事業の実施状況に関する調査より

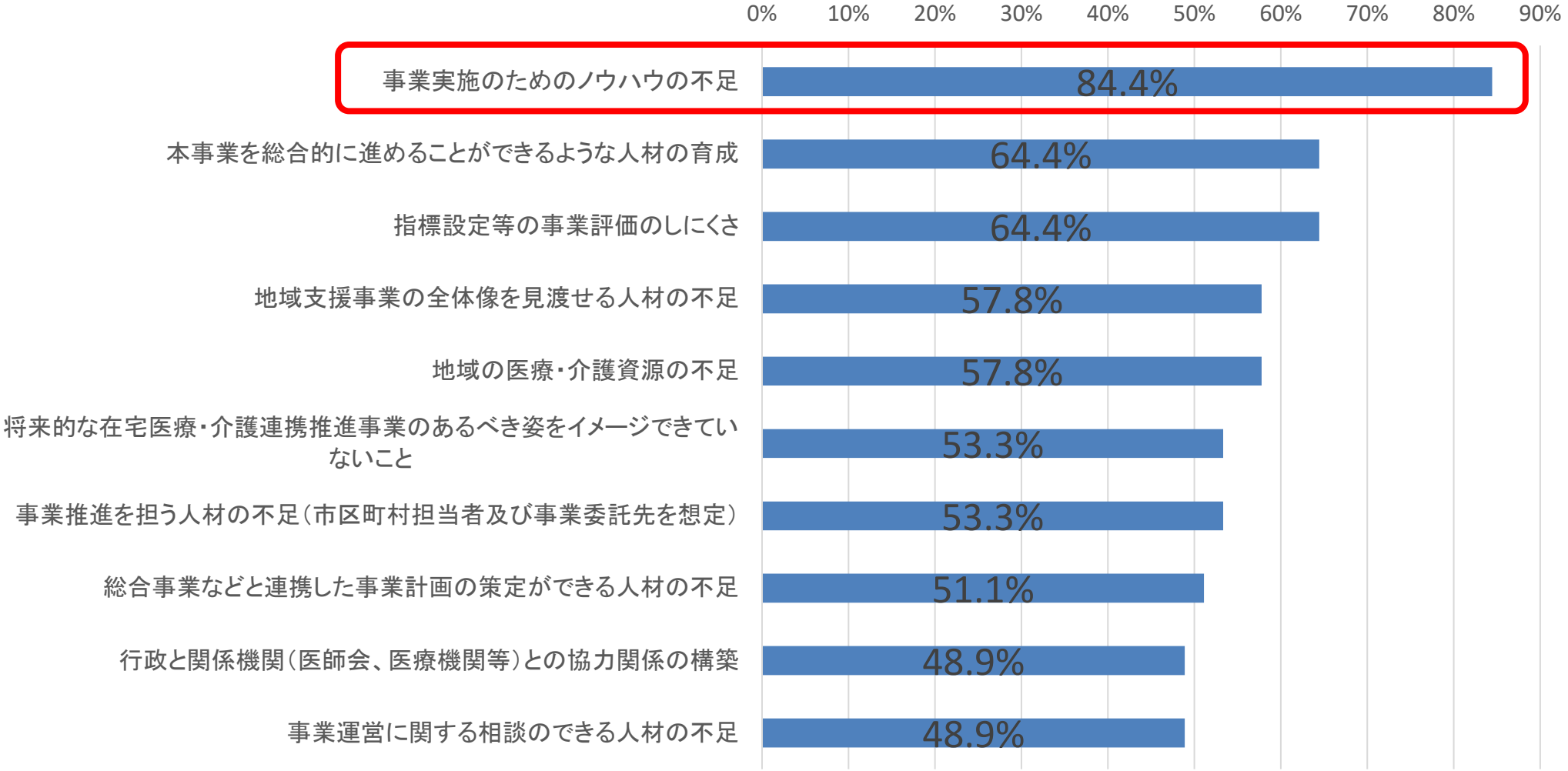
２　都道府県･市町村連携支援参加のきっかけ

「4つの場面」を意識した取組の状況について



２　都道府県・市町村連携支援参加のきっかけ

事業を実施していく中で課題だと感じているもの



２　都道府県・市町村連携支援参加のきっかけ

市町村事業担当者の声

・具体的にどう進めたらいいのか分からない
・課題が多く何をどうすればいいの？
・コロナ禍で関係者と顔の見える関係が失われている

保健所担当者の声

・保健所の立ち位置が不明瞭
・保健所は何をすべきなのか？
・コロナ禍で顔を合わせて話す機会もなく地域の課題がはっきり見えない

県担当者

とにかく課題が多いことは理解しました・・。

で、どうする？

２　都道府県・市町村連携支援参加のきっかけ

令和3年度末時点の熊本県の状況

- 在宅医療・介護連携推進事業は市町村が郡市医師会等に委託して実施（委託せずに自ら実施している市町村もある）
- 郡市医師会の多くは地域在宅医療サポートセンターにも指定されており、市町村の事業と県のサポートセンター事業の両方を実施（重複する項目もある）している
- 保健所も在宅医療に係る地域の課題や福祉資源の把握、具体的な対策の検討等の役割を担っている

↓

何が問題か？

２　都道府県・市町村連携支援参加のきっかけ

何が問題か？

- それぞれが役割を担い、在宅医療・介護連携の取組みを実施しているものの、サポートセンターが何をしているか市町村は知らないなど、互いの動きを知らないまま進めており、結果としてPDCAを運用した事業実施が出来ていない

- 事業を委託せずに自ら実施している市町村は、郡市医師会等との関係をつくりにくい

- 今後も市町村の取組を支援していくには、市町村、郡市医師会等、当該圏域の状況に精通した保健所の役割が重要だが、コロナ禍での活動の難しさ、担当者の異動等もあり、保健所も市町村や医師会の状況を詳しく把握できていない

関係性の再構築が必要ではないか？

互いの状況を改めて知ってもらうことが重要では？

２　都道府県･市町村連携支援参加のきっかけ

効果的な対策として考えられるもの

関係性の再構築に向け、関係者を一堂に会した研修会の開催

誰を対象に？どんな内容で？講師は？構成は？など、
ノウハウがなく悩んでいたところ･･･

２　都道府県・市町村連携支援参加のきっかけ

2022年3月1日（火）13：00～16：30

令和3年度　在宅医療・介護連携推進支援事業「都道府県等担当者研修会議」

―都道府県による市町村支援を考える―　というテーマで開催

（株）富士通総研の支援を受けながら市町村支援を実施した4つの都道府県が取組み成果を発表

着任2か月目の
県担当者

・市町村支援を行う都道府県の支援もあるんだ！
・これにエントリーすれば効果的な市町村支援ができるかも？！

・・・令和4年度の支援事業にエントリー

本日の内容

1　熊本県の概要

2　都道府県・市町村連携支援参加のきっかけ

3　都道府県・市町村連携支援内容

4　今後に向けて

3　都道府県・市町村連携支援の内容

1回目支援	2回目支援	研修会開催	フォローアップ
8月26日（オンライン）	10月5日（現地）	11月30日	12月～
・事業マネジメントに関する理解の習得 ・過去3年間の市町村支援の棚卸 ・市町村支援の実施計画を考える	・県内の事業の実施体制の整理 ・市町村支援の具体策を検討 ・研修会の内容を検討	**研修会開催**	・保健所担当者との振り返り・意見交換（12/22） ・モデル地区のフォローアップ（2/17）

・課内打合せ
・市町村、保健所聞き取り

・課内打合せ
・富士通総研相談・打合せ

1回目支援（講義・演習）

- 在宅医療・介護連携推進事業展開の現状、課題と都道府県による支援の在り方について（講義）
- 事業マネジメントの観点から以下の手順で市町村支援の実施計画案を立てる（講義＋演習）
  - ① 在宅医療・介護連携推進の目標を設定
  - ② 目標に対し、市町村の現状はどうか
  - ③ 研修のゴール（短期的、中長期的）
  - ④ 研修のテーマ、内容、実施方法、効果測定
- それぞれの都道府県の実施計画を共有

実施体制や現状把握がぼんやりしており、実施計画案の作成が時間内に完了せず終了

→ 2回目支援に向け、実施体制などを改めて整理

2回目支援に向けて（実施体制の整理）

熊本県の実施体制

熊本県
(認知症対策・地域ケア推進課)

＜役割＞
在宅医療・介護連携事業全般
＜課題＞
市町村支援のノウハウ不足

県サポートセンター
(県医師会)

＜役割＞
各地域在宅医療サポートセンターと連携し、普及啓発や人材育成など、**全県的な施策を推進**。

地域サポートセンター
(医療機関・郡市医師会等)

＜役割＞
各圏域内の地域特性に応じ、日常の療養支援や急変時対応等の在宅医療を推進
＜課題＞
多職種間の連携不足(医師とケアマネ等)、訪問診療を行う医師の不足や高齢化、地域でのACPの普及など

郡市医師会

事業委託

市町村
(45市町村)

＜役割＞
在宅医療・介護連携推進事業実施主体
＜課題＞
事業実施のためのノウハウがない

保健所
(10か所)

＜役割＞
地域の関係者と課題の抽出や連携体制の在り方を検討（在宅医療連携体制検討地域会議）
＜課題＞
医介連携事業における立ち位置が不明瞭

2回目支援に向けて（課題の整理）

市町村、保健所に対して事業に関する課題、難しいと感じていることを聞きとり

聞き取り先	課題
市町村	委託先（医師会）との役割分担ができていない。 意思疎通が不足しており、8つの項目のどこに力を入れてほしいというものが委託先に示せていない。
	今年から担当になり試行錯誤。多職種連携が難しいと感じている。
	市町村と委託先（医師会）とのビジョンのミスマッチ。市町村は、医師会と関わることがなかったため、この項目をここまでやってほしいと言いづらい（医師会の敷居の高さ）。
保健所	・保健所として何をすべきか不明確で、具体的な取組ができていない状況。
	・地域によって在宅医療・介護連携の取組みに温度差がある。ここ数年はコロナで地域の会議などの開催も難しく、地域の課題がはっきり見えない。

2回目支援に向けて（課題・方向性の整理）

聞取りを通して

課題とは「現状」と「目指す姿」のギャップのことであるが、聞き取りの結果、できていない現状を課題と認識しているものが多くある。
→そもそも、4つの場面別の目指す姿や事業で目指す姿が設定されていない可能性がある。もしくは、市町村で設定していても、地域の関係者間で共有することができていないのではないか

研修会ゴール（短期的）

◆市町村が研修後に、事業の取り掛かりとして、「まずはこれから始めるといい」、「誰とどんな話をすればいい」ということが分かる。
◆コロナ禍で失われつつある、地域での顔の見える関係の再構築ができる。

研修会ゴール（中長期）

◆目指す姿と目的を持ち、地域で繰り返し共有し、保健所・市町村・委託先（郡市師会等）の関係機関同士で役割分担ができる。
◆市町村が、課題のとらえ方を理解し（現状を目指す姿に近づけるためにどうしたらいいか、という観点から何が課題かを考える力を身につける）課題を絞り込み、具体化できるようになる。

2回目支援に向けて（具体的な支援の検討）

今回の取組みテーマを次のとおり設定

① **在宅医療・介護連携推進事業の進め方、それぞれの立場での関わり方を改めて理解する**

② コロナ禍で失われつつある、**顔の見える関係を再構築し、地域で現状や目指す姿、課題などを共有できるようになる**

→ **これらを市町村等研修会の開催により支援**することとした

2回目支援に向けて（研修会の構成（熊本県の案））

在宅医療・介護連携推進事業の進め方（講義）

＜目的＞

○　事業を実施する上での取り掛かり（まずはこれをやればいい）が分かる

○　研修後、事業を始めようとしたときに、最初に誰とどんな話をすればいいのかが分かる

＜重視したいこと＞

○　市町村の共感性を重視し、具体的事例を交えた現場感のある講義内容としたい

＋

演習（圏域ごと）、振り返り

＜目的＞

○　コロナ禍で失われつつある関係者の顔の見える関係の再構築

○　市町村が目指す姿と目的を持ち、地域で共有し、保健所・市町村・委託先（郡市医師会等）の関係機関同士で役割分担ができる

＜重視したいこと＞

○　ざっくばらんに意見交換ができる雰囲気（他の圏域の状況も共有できるようにする）

○　最終的には、地域でゴールや課題など、共通認識を持てるようにしたい

・開 催 方 法 ：会場とオンラインのハイブリッド

・参 加 対 象 者：保健所、市町村、事業委託先（郡市医師会など）、地域在宅医療サポートセンター

2回目支援（研修会構成に関していただいた助言①）

2回目支援で、県から改めて実施体制、課題、課題に対して設定した取組みテーマと研修会の構成を示し、次のとおり助言をいただいた

講義に入る前に県から「今回の研修会の狙い」や「講義、事例発表のここに注目」という話をすることで、受講者のマインドセットになる

コロナ対応に追われ、取組みが停滞していること、その間の手引き改訂や担当者の人事異動という状況を踏まえ、「スモールスタートでいい、みんなで大きく育てていこう」ということを県から発信してはいかがか。

2回目支援（研修会構成に関していただいた助言②）

県内の取組み事例を入れてはいかがか。講義で新潟県の事例も交えつつ説明するが、遠いところの話と捉えられぬよう、県内の地域がどのように事業に取り組んだのか、分かるといいのではないか。

受講前後にアンケートを取り、研修会の効果を検証するといいのではないか。特に受講前アンケートでは、参加いただく方の職種や業務の従事年数等を聞いておくと、現状把握の有益なデータとなるのではないか。

これらの助言を踏まえ、課内での検討を続け、研修会の構成を次のとおり設定

2回目支援（助言を踏まえた研修構成）

研修会の内容　13:30～16：30

（1）熊本県より研修会の重要ポイント説明

・本研修会の目的・ポイントを説明

・在宅医療・介護連携が求められる場面や、なぜ連携が求められるのかを説明

・事業を進める際のPDCAサイクルの考え方、課題のとらえ方や地域で目指す姿を設定する重要性について説明

（2）講義

～在宅医療・介護連携推進事業の進め方～新潟県における行政と医師会のパートナーシップ

講　師：一般社団法人新潟県医師会在宅医療推進センター　コーディネーター　服部　美加　氏

（令和4年度在宅医療・介護連携推進支援事業アドバイザー）

（3）事例紹介　宇城地域の取組みについて

発表者：宇城市地域包括支援センター

（4）演習

在宅医療の4つの場面から1つ選び圏域ごとに現状や課題、対策を話し合う

（5）演習結果の共有、振り返り

2回目支援（助言を踏まえた研修構成）

実施方法

顔の見える関係の再構築も目的であるため、実施方法は**会場とオンラインのハイブリッド**とし、オンライン参加の地域は**地域ごとに1箇所の会議室に集合して受講**

会議室・機材の手配を保健所に依頼

対象者

市町村、保健所、事業委託先（郡市医師会など）職員、地域在宅医療サポートセンター

演習

熊本県　令和４年度在宅医療・介護連携推進事業研修会

演習　ワークシート

圏域名：＿＿＿＿＿＿＿＿　　回答者名：＿＿＿＿＿＿＿＿

1　在宅医療の４つの場面からグループで１つ選択する

【問１】在宅医療の４つの場面の中から、今回の演習のテーマを１つ選ぼう。	
テーマ	□入退院支援　□日常の療養支援　□急変時対応　□看取り

2　問１で決めたテーマの現状、課題、解決策を話し合おう！

【問 2】問１のテーマについて、以下のことを検討下さい。	
1. 現状 (現状を詳しく把握されている方は皆さんに共有してください。)	どのようなことが起きているか
2. 課題 (このテーマのここが課題というものを認識されている方は、皆さんに共有してください。)	それは何が原因か
3. ２の中で、一番の課題は何だと思いますか？ (取組むべき課題を絞り込む)	
4. どのような対策をとれば、３の課題の改善ないし解決を図ることが出来ると思いますか？	
5. ４の対策をとることで、何がどうなることを期待しますか？	

研修会当日（11月30日）

1　講義

2　演習

3　オンライン会場

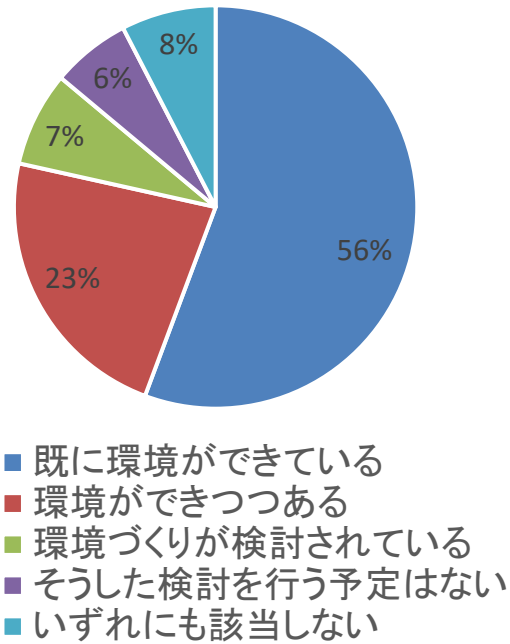
4　オンライン

研修会の効果（研修受講前アンケート調査及び受講後アンケート調査により、研修会の効果を測定）

Q 自身が所属する部署では、在宅医療・介護連携推進についての情報共有や課題把握を複数名で行っている。

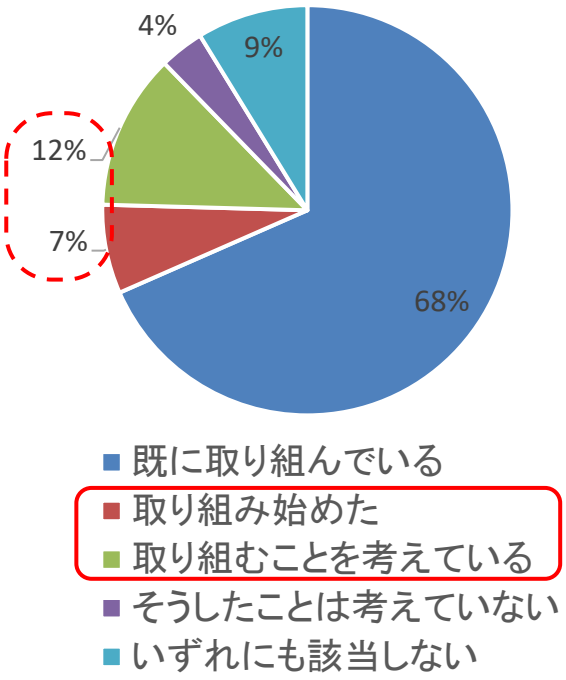
受講前

情報共有や課題把握を複数名で行っているか n=79



受講後

情報共有や課題把握を複数名で行っているか n=57



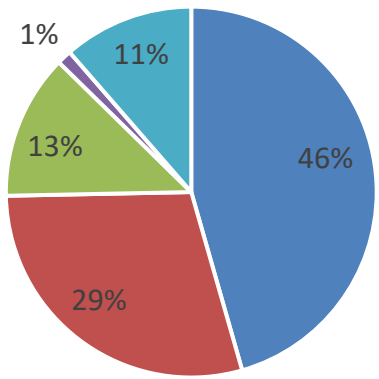
研修受講後、「取り組み始めた」・「取り組むことを考えている」という回答があり、研修会の効果がみられる

Q　自治体職員と現場の医療・介護等の専門職が課題を把握し、共有する環境があるか。

受講前

行政と現場の専門職が課題を把握し
共有する環境があるか

n=79

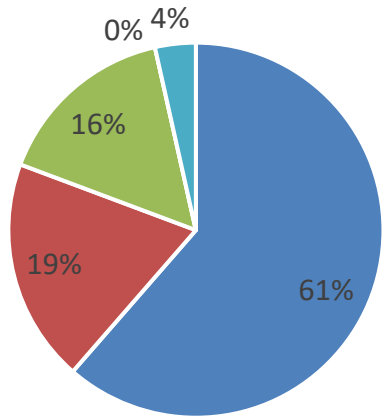


- 既に環境ができている
- 環境ができつつある
- 環境づくりが検討されている
- そうした検討を行う予定はない
- いずれにも該当しない

受講後

行政と現場の専門職が課題を把握し
共有する環境があるか

n=57



- 既に環境ができている
- 環境ができつつある
- 環境づくりが検討されている
- そうした検討を行う予定はない
- いずれにも該当しない

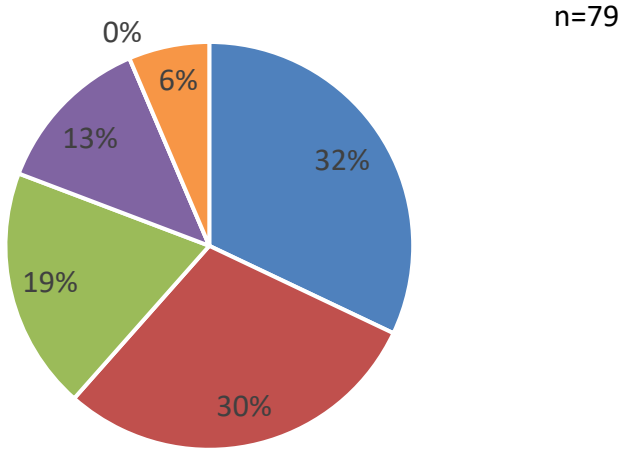
研修受講後、「既に環境ができている」・「環境づくりが検討されている」の割合が増加し、研修会の効果がみられる

Q　現場の専門職に実態や課題を聞いているか。

受講前

現場の専門職に実態や課題を聞いているか

n=79

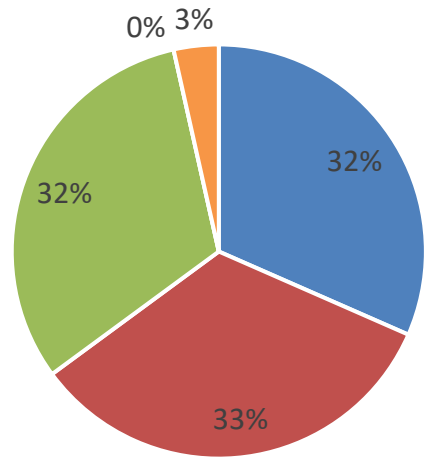


- 実態や課題を聞いており、課題の原因、改善方法を検討している
- 実態や課題を聞いているが、課題の原因、改善方法まで検討していない
- 実態や課題のみ聞いている
- 聞いていない
- 必要性を感じていない
- その他

受講後

現場の専門職に実態や課題を聞いているか

n=57



- 既に実態や課題を聞いており、課題の原因、改善方法を検討している
- 実態や課題の聞き取りを開始し、課題の原因、改善方法まで検討する予定
- 必要に応じて取り組んでみたい
- あまり必要性を感じていない
- その他

研修受講後、「実態や課題の聞きとりを開始し、課題の原因、改善方法まで検討する予定」・「必要に応じて取り組んでみたい」という回答があり、「あまり必要性を感じない」という回答が0であったことから、研修会の効果がみられる

研修会の効果（研修受講前アンケート調査及び受講後アンケート調査により、研修会の効果を測定）

研修会の感想	
コロナ禍で、顔の見える関係が築きにくい中で、圏域だけでも集合研修ができ、業種の異なる方の意見や知見を知ることができた。	顔の見える関係の再構築
他部署や委託先、保健所の方と顔を合わせて話すことができて良かった。	
地域の課題を整理していくうえで必要な考え方（PDCAサイクル等）も学べたため、今後の検討に活かしていきたい。	事業の進め方に対する理解
何か一つでもPDCAサイクルをまわし、形にしたい。他機関、他事業と共同するヒントも得る事ができ、来年度の取組みに活かしていけそう。	

在宅医療・介護連携推進の研修で今後取り上げてほしいテーマ

- ○ 救急時対応や看取り
- ○ 身寄りがいない住民の療養支援（入院・入所支援、意思表明が難しい場合の医療行為の選択等）
- ○ 高齢者だけでなく、小児や成人、精神など幅広いテーマを取り上げてほしい
- ○ 在宅医療統計データの分析方法

来年度以降、在宅医療・介護連携研修会のテーマ選定の参考とするなど、ニーズに合った支援を続ける予定

研修受講後の地域の取組み

ある地域の事例

- 研修会の演習において、「救急搬送時に家族やキーパーソンとなる方と連絡が取れない」という現状を共有し合い、時間内に対策まで検討

↓

- 研修会で構築した顔の見える関係を活かし、研修後に改めて意見交換を実施

↓

- さらには、意見交換のメンバーに救急本部を追加

↓

- 今後、定期的な意見交換と検討を重ね、救急時の対応を速やかにすべく、各市町の命のバトンの活用（記載内容、置き場等の統一）や連絡窓口の統一化に取り組んでいく予定

県、保健所も随時フォローしていく予定

本日の内容

１　熊本県の概要

２　都道府県・市町村連携支援参加のきっかけ

３　都道府県・市町村連携支援内容

４　今後に向けて

4　今後に向けて

◆　支援をとおして得た気づき

- 効果的な支援のために、現場の声に耳を傾ける

  市町村支援として、一方的に「講義形式で研修会を開催すればいい」ということではなく、担当者が「何に困っている？」「難しいと感じることは？」を聞き出し、ゴールを見据えてテーマを設定すること。

- 研修会冒頭のマインドセットの重要性（テクニックとして）

  いきなり講義に入るのではなく、最初に「重要ポイント」の説明（この話のここに注目！）を加えるだけで受講者のマインドセットとなり、理解を深めやすいということ。

4　今後に向けて

- 今回は、コロナの影響などを受け停滞していた事業を、一度巻きなおすために全体研修会を開催

- 想像を超える人数の参加があり、事業の進め方に悩みを抱える市町村等は多いと考えられる

来年度の方向性

- 受講後アンケートで回答の多かった「研修会で取り上げてほしいテーマ」について研修会の実施を検討したい。

- 併せて、本県では「地域包括ケアシステム構築加速化事業」で市町村の「伴走支援」も実施しているため、他の事業も活用しながら、在宅医療・介護連携に課題を抱える地域の伴走支援を実施していきたい。

ご清聴ありがとうございました